

奈良県パイロット事業 【 作業時間の制限による拘束時間の削減 】

- パイロット事業(実証実験)は、コンサルタント等の専門家のアドバイスのもと、実験に参加するトラック運転者の長時間労働等の改善を図るものである。以下のように、①荷主及び運送事業者の現状の分析、②課題の洗い出し・課題に対する解決手段の検討、③解決手段の実証実験、④検証等を行う。
- この事業で明らかになる課題や解決策は、平成30年度に取りまとめるガイドラインに反映し、横展開することで、トラック業界全体の長時間労働是正につなげる。

現状分析

実験に参加する事業者と、コンサルタントが連携し、当該集団における運送取引の実態を把握。(打合せや事業場の訪問を複数回実施。)

<参加集団>

- 発荷主(建設資材製造)A
- 元請運送事業者ア
- 着荷主(販売業者)a

※発荷主・着荷主・運送事業者ともに非公表

<内容>

- 荷種 建設資材
 - 発地 奈良県
 - 着地 近畿一円
- コンサルタント



課題の洗い出し 解決手段の検討

現状分析を踏まえ、当該集団の課題を設定し、この課題を解決する手段を検討する。

<課題>

- 荷役作業関係
 - 建設現場付近まで大型車で運送し、小型車で横持ちするため、待機場所で積替えが発生する。
 - 繁忙期には横持ちの台数、作業員の人数が少なくなることがある。
- 拘束時間関係
 - 現場の状況により横持ちの有無、回数、距離などが変わることによって拘束時間が長くなることがある。
 - 天候により、作業時間が長くなることがある。
 - 作業の指揮をとるリーダー(ドライバーを兼任)の拘束時間が長い

実証実験

設定した課題に対する解決策を実証する。

<実験>

- 作業時間の制限
 - 長時間拘束が想定される現場では、あらかじめリーダーの現場離脱時間を決め代替要員を確保することで拘束時間を短縮する。
- 作業開始時間の厳守
 - 従前は集合場所と据付場所で個々に実施していた安全ミーティングを集約するなどして簡素化、作業の9時スタートを徹底する。
- 高速道路の適宜利用
 - 高速道路を利用する車両と利用しない車両を設定し、到着時間の違いを比較することでその効果を検証する。

実験結果検証

7～12月

1～2月頃

3月以降

【拘束時間が長くなる輸送の例】

